

だっこするよ

2024年4月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

子どもも大人もみんなが主役！！
オール赤羽台で子育てを楽しもう！

春爛漫の到来！子どもたちの新年度を祝福しているかのように玄関のチューリップも桜も見事です。日本中の桜や草花達が咲き始めました。

ご入園、ご進級、心よりおめでとうございます。新たに45名のお友達と保護者の皆様をお迎えして、総222名の子ども達と保護者の皆様、職員71名で未来という大海原へ出航です。

子ども達の心と体の成長という港までどう進むか、一人一人自分の船で進むのです。風を読み、安全な航路を決めても、進むのは子ども達、そして、漕ぐスピードも船のカタチや大きさも違います。大人の私たちも自分の船があるので、「こっちだよ」とアドバイス出来ても自分の船から見守ることしかできません。

自分で考えて、自分で決めて、自分でやらせてみる。あなたの人生はあなたが決めていくんだよ～と応援してください。どんな冒険が始まるのか、あの子たちの中に地図があるはずです。でも、毎晩、休息する港（家庭）では、親子でたっぷり語り合い、触れ合ってくださいね。

この一年の航海が、豊かな人生の一日一日となります。子どもにとっての最善とは何かを一緒に考えて、嬉しいことも悩んでいることも話し合い、オール赤羽台でいきましょう。もし危険なことをしていたら、我が子のように「ぶつかると危ないから歩こうね」と声掛けをお願いします。子育てで悩む日には、先輩ママやパパや私たちに「ちょっと聞いていいですか？」と何でも尋ねてくださいね。アイデアを教えてください。大人は、子育て協同隊です。一日、一日、笑った

り、泣いたりして、来年の3月、2024年度の最終のゴールへ、一回りも二回りも遅しく成長していることでしょう。

3月23日、第8回目の卒園式が行なわれました。41名の年長児が巣立っていきました。自分の夢を宣言して、花道を堂々と歩く姿に感動しました。一人ひとりがやり遂げた感覚、遊びきった満足感に包まれ自信（自己肯定感）に満ちていました。小学校でもしっかりと自分の得意なことを探究して、根を張って欲しいです。異年齢保育が開始し、戸惑いもあった中、話し合うことや助け合うことを見せて教えてくれました。その姿を皆、学んできました。「絶対、小学生ボランティアに来るよ」「昌子さん生きていてね」と…夏休みに会える日が楽しみです。

こんな園を創りたい！

「子どもは、われわれの援助によって、自身で自分の人格を築く」セレスタン・フレネの言葉です。好奇心の塊のような子ども達が、自由に、主体的に、伸び伸びと遊びや制作に取り組み、自己発揮をしていく。そんな園へ。今しかない乳幼児期こそ、子ども達の声に耳を傾けて、子ども達がやりたいと思うことをやるのです。

そもそも、子どもは、生まれてきたことに大きな意味があり、価値があります。ありのまま、その子がその子らしく生きることこそ私たちの喜びです。個々の特性を受け止めて、アセスメント（理解）を丁寧に言い、その子の得意なことをどんどん応援していく。

自由遊びの時間をたっぷりとり、その力を発揮する場を作り、集団生活のスキルを身に付けながらここが楽しいと感じられたら最高です。

行事も徐々に見直し、子ども達と話し合いながら決めていきます。毎日のわらべうた遊びで、輪になって遊ぶ。母語であるわらべうたには、民族が伝承してきた愛情や文化が詰まっています。他者とのつながりを育む人格教育であり、人間として認め合う時間になります。わらべうたでも、遊びでも人間尊重の園を創りたいです。

保育や教育に正解はありませんが、私たちが経験したことの無い時代を生きていく子ども達、未来のあなたが、幸せに生きていくために、今、私たちが出来ることはなんだろうと考えると乳幼児期こそ大人主導の一斉保育から、子ども主体へ。自分は大切にされると感じ、幸せを感じながら子ども時代を過ごすことだと思います。挫折しても「自分ならきっと大丈夫だ」と乗り越えていくと信じています。

さあ、4月、出航です！ オールをもって！！
写真は、どんどんさん最終日のドッジボール大会 盛り上がりました！！